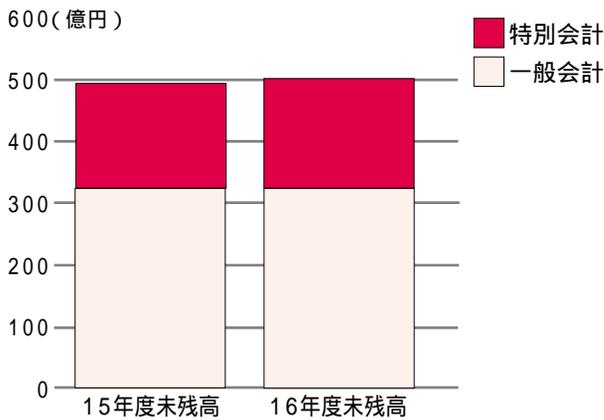


【表5】市債（元金）の状況

区 分	15年度末残高	16年度中償還額	16年度中借入額	16年度末残高
一 般 会 計	317億6,635万円	30億9,121万円	29億4,340万円	316億1,854万円
学校給食事業 特別会計	4,530万円	785万円	0円	3,746万円
公共下水道事業 特別会計	179億9,852万円	5億2,211万円	12億2,092万円	187億1,733万円
簡易水道事業 特別会計	6,379万円	1,598万円	1,080万円	5,861万円
合 計	498億7,396万円	36億1,715万円	41億7,512万円	504億3,194万円

表示単位未満を四捨五入しているため、積み上げ額が一致しない箇所があります。

【グラフ5】市債（元金）の状況



法の1つであるとともに、主に次のような機能を持っています。

財政支出と財政負担の年度間調整を図る機能

公共施設を建設する場合など、一度に多額の出費をするとはかの事業ができなくなるので、市債を借入れ、その返済を長期間分割することにより、市の財政負担を平準化することができます。

世代間の負担を公平化する機能

建設した施設などは、後世の市民も利用することから、将来にわたって市債を償還することで世代間の負担を公平にするという役割を果たしています。

一般財源を補完する機能

市債の発行により、本来、一般財

公債費

公債費は、家庭でいう借金の返済に充てるお金で、市債として借り入れたお金の償還などの経費です。

市債は、市が一度に多くの出費を必要とする場合に認められる長期の借入金のことをいいます。

また、地方公共団体の資金調達手段



クリンクルセンター

源をもって措置されるべき不足額を臨時的に賄うことができます。

それでは、登別市の公債費について見てみましょう。

5頁【表4】のとおり平成16年度決算では約38億円となりました。平成15年度と比較すると、9億5千万円ほど増えています。市債の一部（減税補てん債）を借り換えした8億6千850万円を含んでいるため、実質的には8千万円ほどの増加となります。

続いて市債残高を見てみましょう。【表5】と【グラフ5】のとおり、市債残高も増えています。

単純に考えると、1年間で新たに借り入れた金額が返した元金よりも多いと残高も増えます。

平成16年度末の一般会計の市債（元金）残高は約316億円、4つの会



市民プール『らくあ』



火葬場『葬斎場』

計の合計では約504億円の借入残高になっています。

近年の市債の状況をみると、公共下水道事業やクリンクルセンター、火葬場『葬斎場』、市民プール『らくあ』の建設など、遅れていた都市基盤整備や施設の老朽化への対応から残高が急激に増加し、市の財政を圧迫しています。